

DOJIN  
R18  
成人向け

みだりの実態!!

# 美少女ポニーで敵を操られ 公開村に性奴隷になった件

女騎士の城















































































































































































































































































——これは、本来の歴史とは別の世界線の物語——

俺はリムルⅡテンペスト。三上悟として日本でサラリーマンをしていたが、通り魔に刺され死亡し、この世界にスライムとして転生した。

それからは色々あって、魔物たちが平和に暮らせる国「ジュラ・テンペスト連邦国」の盟主になったりした。

その間も、運命の人であるシズさんと出会い、この姿を得たり、シズさんが育てていた教え子達を救ったりしながら、第二の人生を楽しんでいる。

そんな折、出かけた先のダンジョンで、偶然にも魔王クレイマンと遭遇してしまった。

魔王クレイマンは、俺の国であるテンペストにとっての宿敵だ。

当然、俺とクレイマンは交戦状態になったのだが…。

おのれ！  
スライムごときが  
この私にイ！！

流石魔王だけあって  
しぶといな…  
でもこれなら…！！

相手は魔王です。  
油断しないよう。

魔王と聞いていたので、圧倒的な強さを予想していたのだが、今の俺でも勝てそうな実力の相手だった。コイツってこんなに弱いのか？ いや、流石にそんな事は無いだろう。大賢者さんも警戒しているし、何か凄い力を隠しているに違いない。俺はユニークスキル「暴食者」をいつでも使えるように、警戒しながらクレイマンとの距離を詰めた。



死ぬがいい!!  
下等なスライムめが!!

モズゾウ

なっ!!!  
喰らい尽くせ!  
暴食者!

モズゾウ

待って下さい  
マスター!  
あれは...!!

俺が近づいた所で、クレイマンは何かを俺に向かって投げつけてきた。やっぱりか! 警戒していなければ直撃を喰らう所だった。俺は瞬時に「暴食者」を呼び出し、それを飲み込んだ。その瞬間、大賢者が俺に強烈な警告を出した。まさか...!

モズゾウ

うぐっ？  
あう！！

クックックク：  
かかったなスライム！！  
それは支配の宝珠だあ！！

何でも喰らい尽くす貴様なら  
引つかかると思っていたぞ！！

えっ？ 何が起こったんだ？  
：あいつ今、支配の宝珠って言った？  
あの攻撃は、俺に支配の宝珠を食わせるための罠だったのか！？

ヒッ  
カッ

か、体が  
動かない？！？

す  
す  
す



クッククック…  
我が計画を邪魔され続けた恨みだ…  
徹底的に辱めてやろう…!!

うぐ…!!

そ、そんなっ…  
スキルは!?  
大賢者とは会話  
出来るじゃないか!

解。私だけは支配から  
逃れる事に成功しました。  
これから解呪を試みます。  
それまで耐えて下さい。

わ、わかった…!  
大賢者だけが頼りだ  
頼んだぞっ…!!

告。支配の宝珠を飲み込んだ事により、  
マスターの肉体の支配権が、  
クレイマンに移っているようです。

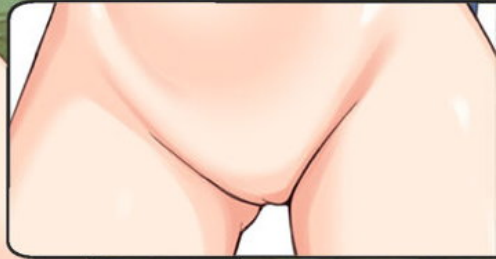
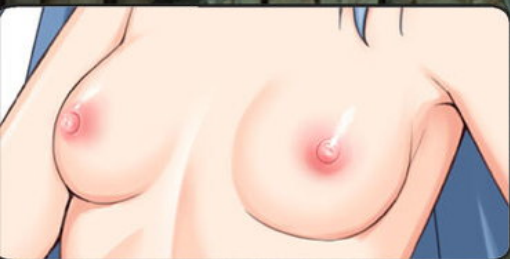
さあ、か弱い少女の肉体になってこの私を楽しませるのだ!!

ひっ!! あっ!!  
何すんだこの変態っ!!

ほほう、案外美しい体を  
しているじゃないか、ええ?

なっ...!!

俺の服が剥ぎ取られると、無性の状態だった俺の肉体は、瑞々しい少女の肉体になっていた。肉体の性別までコイツの命令通りになってしまうのか...かなり強力な支配と言わざるを得ないな...



クククククツツ…どうだ？  
憎い敵に醜態をさらす気分は？

くっ…  
悪趣味なっ…!!

？…!!

そうは言っても体は正直だな  
頬が赤くなっているぞ？

クレイマンはマネキン人形の手首を操り、俺の体に近づけた。  
感情の無い無機質な手首が俺の乳首を愛撫する。  
敏感な所を責められて、思わず声を漏らしそうになる所を、俺は悪態をつくことでごまかした。





私は寛容だからな  
首から上の支配権は  
貴様に残しておいてある  
精々メスとして媚びる為に  
耽美な声で鳴くがいい……!

くっ…誰が？…  
あああっっ♡

うぐらっ…  
ひいっ♡

そうだ！泣け！叫べ！！  
自分が下等なスライムだったと  
改めて自覚することだ！

その手首は俺の腹をなぞりながら下へと降りて、俺の割れ目をなぞり始めた。  
あまりの敏感さに、俺はついに声を我慢できなくなり、悲鳴を上げてしまう。  
こんな奴を楽しませる事になるなんて…。俺は唇を噛み締め、その刺激に耐える。

すすすす

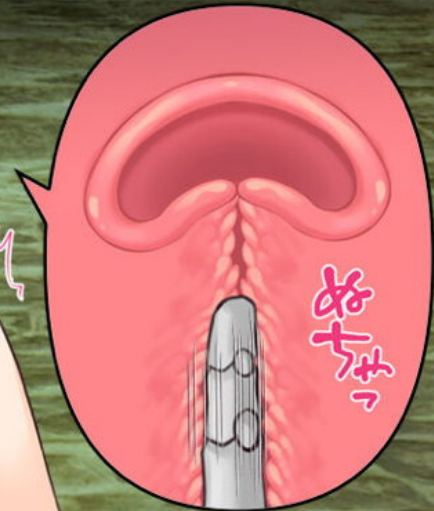
いいのか？ マネキンの指が  
貴様の大事な所に挿入るぞ？

や、やめっ… ひっ！  
あああっっ♡♡

ほう、中々に具合が  
良いではないか  
スライムとしての才能か？  
クックック

く、くそっ…  
バカにしゃがって…！

大事な所に侵入される嫌悪感、そして強烈な異物感と刺激。  
それよりも、こんな奴の前で見せ物にされるという屈辱。  
俺は目に涙を浮かべて、悲鳴を上げる事しか出来なかった。



どうだ？ 敵に愛撫されて  
マネキン相手に  
濡れてしまう気分は？

さ、最悪だよっ…!!  
……ッ♡

そうかそうか！  
快楽に敗北するさまを  
しっかり見ておいて  
やるから無様にイクがいい！



んっ…あっ…♡  
やめっ…!!

なんでこんなに愛撫が気持ちいいんだ?? ただのマネキンの指なのに…  
指が滑らかに動いて、俺の膣内の気持ちのいい所を的確に責めてくる。  
だめだ。こんなの、我慢できるはずがない…。  
女の身体にされてこんな奴の前で…俺は…。



ひぎっ♡  
あああああ♡♡♡♡

はっ

はっ

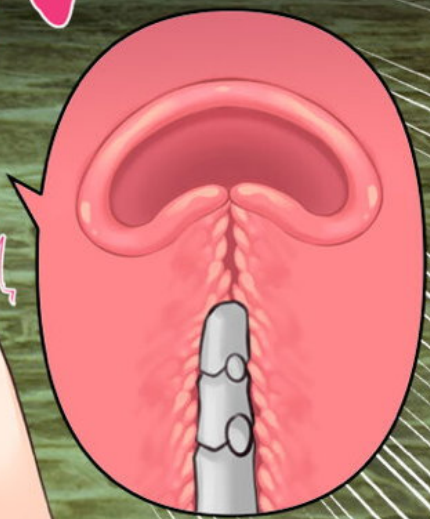
ヒククク

ヒククク

ヒククク

マママ

ヒククク



ハーハッハッハッ!!  
絶頂したなスライム!!  
無様なやつだ!!

ぐっ...  
はあっ... はあっ...

どうだ? 私に忠誠を誓うなら  
辞めてやつてもいいんだぞ?



だ、誰がお前なんかにつ...!!  
この変態ゲス野郎っ...!!

俺は無様に絶頂し、体をピクンと痙攣させ、愛液を滴らせる。  
こんなゲス野郎が見ている前で愛撫されて、気持ち良くなってしまうなんて...  
くそっ...クレイマンの勝ち誇った変態顔、二発ぶん殴ってやりたい...



面白い！まだ抵抗するか！  
そうでなければ面白くない！

っ…

なっ…!!?  
なんだその数っ…!

さて、これからが本番だ  
私のスキル「操演者」に  
貴様の精神は耐えられるかな？

絶頂したばかりの俺の目の前に、先ほどのマネキンの手首が、無数に並べられる。  
まさか、その手に同時に俺を凌辱させるつもりなんじゃないだろうな？  
さっき一本だけでこんなに刺激が強かったのに、それがこんなに…俺は顔を青ざめさせた。



では明日の朝まで放置してやろう  
精神が壊れないように祈っているよ

や、やめろっ……!!  
あああああっつっ!!







大賢者、まだ呪いは  
解除できないのか？  
どれくらいかかりそうだ？

ふむ、裸だけでは品が無い  
これに着替えるがいい

解。早くても  
1週間はかかります。  
魔王すら従えかねない  
強力な呪いです。

1週間!?  
そんなにも…  
でも何とか  
耐えなきゃな…

なっ…!  
こんな破廉恥な…ッ!

拒否権などない。俺の身体は操られるがままクレイマンの指示で、  
女性用の下着姿に着替えさせられたのだった。

ハッハッハッ!!  
よく似合っている  
ではないか!!

くっ...!  
だ、誰がこんな格好...!  
この変態野郎がっ!

身体のラインを綺麗に魅せる  
高級な衣装の良さがわからんとは  
所詮は下等なスライムだな

手足を包む手袋と靴下は、上等な素材を使っているのか、肌触りがとてもいい。  
そして、胴体を包むコルセットの程よい締め付け感と、小さいパンツの密着感と頼りなさ。  
今の俺の体が女性体である事を、肌の感触だけで思い知らされてしまう。  
こいつの目の前で、こんな格好をさせられるなんて...俺は屈辱感でクレイマンを睨みつける。



鏡でも見て  
みたらどうだ？

えっ！

ハッハッハ！  
自分の姿に見惚れたか！  
貴様もとんだ変態だな！

クレイマンはそう言って、俺の目の前に大きな鏡を置いた。  
確かに可愛い…こんな美少女が、こんなセクシーな恰好を…。  
いいやっ！ 何言ってるんだ!! これは俺の姿だぞ!!  
くそっ…クレイマンの奴、ニヤニヤと見下しやがって…!!



そんなに気に入ったか！  
ならその姿を見ながら  
オナニーでもするがいい

ひっ！だめっ！  
だめだめっ！！

クレイマンに操られた腕が、勝手に自分の割れ目をなぞりあげる。  
目の前の鏡に、オナニーしている美少女が映し出される。  
その美少女の動きとリンクして、俺の体に女性としての快楽が与えられていく。  
ヤバイ、気持ちいい。俺の男心が目の前の少女をもっと辱めたいと思ってしまう。  
でもその少女は俺なわけで…頭が混乱する。



随分と興奮しているではないか  
貴様は自分の姿でオナニーできる  
変態だったのか？

ち、違っ…  
そんな事はっ…  
ひっ!!

俺の体は、さらに俺に見せつけるように、オマンコを左右へと広げる。  
綺麗なピンク色のオマンコが、愛液の糸を引いて広がっていく。  
こんな美少女が、こんな恥ずかしい恰好を、俺の目の前で…。  
快樂の塊のような衝動が、俺の奥から湧き上がってくる。  
ダメだ…もう我慢できない。



んっ…んっ…♡  
あああああ♡♡♡

ハハハハハ!!  
自分の卑猥な姿を見て  
イッたか!!

俺の体は、オナニーで絶頂に達し、痙攣する俺を見てクレイマンは高笑いしている。  
一晩中絶頂を繰り返してもう慣れたと思っていたのに、まだこんなに気持ち良くなるなんて…。  
相変わらず俺の体は言う事を聞かず、ただ痙攣し、愛液をまき散らす事しか出来なかった。



もう終わりだと思ったか？  
次はこれを使ってやる

うぐっ…  
はあっ… はあっ…

おいっ…  
まさか… ツ

クレイマンが指を鳴らすと、俺を二晩中愛撫し続けたマネキンの手首が現れ、無骨な形をした、太さも長さも凶悪なデイルドを、俺に見せつけてきた。まさか、こんなデイルドを俺に使おうって気なのか…？



一晩中、指だけの愛撫では物足りなかつただらう？

だ、誰が…!!

ほら、物欲しそうにオマンコを広げておねだりしているではないか？

俺の体は、俺の意に反して、俺のオマンコを左右に広げ、愛液をデイルドに滴らせる。こいつ、人の体を操っておいて、まるで俺が欲しがってるみたいなの言い方じゃがって…!! 後で覚えてるよ…肉体の主導権を取り戻したら、必ず…。







うぐぐぐ!!!

うぐぐぐ!!!

うぐぐ

うぐぐ

うぐぐぐぐぐ

うぐぐぐ

ハーツハツハツハ！  
一気に飲み込んだな!!  
流石はスライムの身体と  
言ったところか！

あぐっ…やめっ…  
ひざこっ!!



クレイマンはマネキンの手首を操り、俺の最深部まで、一気にディルドをねじ込んだ。  
指なんかとは比べ物にならない、凶悪すぎる圧迫感に、俺の意識が飛びそうになる。  
しかし、こんなにも酷い目にあってるのに、こんなにも屈辱的な扱いをされているのに…。  
何故か俺の膣は喜んで、それをぎゅうぎゅうに締め付けるのだった。

ほら、腰を動かせ  
自分でデイルドを  
しごいて見せろ

ひっ…♡んっ…♡  
あああ…♡

クレイマンの命令で、俺の体は腰を前後左右にぐりぐりと動かした。  
それに合わせて、マネキンの手首も、俺の子宮口にデイルドの先端をぐりぐりと押し当ててくる。  
ダメだ！こんな奴が見ているのに、膣内をほじくられるのが気持ち良すぎてたまらない。  
今は操られているのか、それとも俺の意思で動いているのか、分からなくなってしまう。



そんなにも気持ちがいいか？  
ならもつと奥を  
刺激してやるとしよう

お、奥っ…？  
ひっ!! やめっ!!  
ああああっっ♡♡♡



クレイマンがそう言うのと、ディルドが俺の子宮口に侵入を開始した。  
一番奥に、女の子の一番大事な所に、ディルドがねじ込まれて行く。こんな奴の目の前で…  
でも…。侵入してはいけない場所を征服される。その背徳感が、俺を絶頂へと誘っていく。  
ヤバイヤバイヤバイヤバイ…ダメだ…もう我慢がっ…。





あぐっ…  
あああああつー！ー！ー！

ヒクッ

ヒクッ

わ

わ

は、

は、

は、

は、

ヒクッ

ヒクッ

ヒクッ

ヒクッ

ヒクッ

ヒクッ



ヒクッ

ヒクッ

派手に絶頂したなスライムよ！  
どうだ？ 宿敵に子宮を  
玩具にされた気分は？

はあっ！  
はあっ！  
はあっ！

くっ！  
あっ！

ビクン♡

ビクン♡

ビクン♡



俺は本気で絶頂し、派手に愛液をまき散らしながら、体をビクンと痙攣させる。  
クレイマンに何か言い返そうにも、絶頂による快楽が激しすぎて、言葉が出てこない。  
こんなムカつく奴に、こんな屈辱を与えられているのに、なんでこんなに気持ちいいんだ？  
俺ってこんな変態だったのか…？



そうだな こうなったら  
お前の精神が壊れるまで  
お前に辱めを与えてやるう

うぐっ…  
も、もうやめっ…

いまだ絶頂で痙攣する俺を見下しながら、クレイマンは愉快そうに高笑いした。  
これから俺に、一体どんな辱めが与えられるのだろうか…。  
俺はそれを想像し、少し期待している自分に気が付いてしまった。



翌日。

俺はクレイマンが支配している、傀儡国ジスターヴにある、場末の酒場へ放り込まれていた。ここにはガラの悪い冒険者が集まっているようで、客は俺を見るなり下品なヤジを飛ばしてきた。

おお、可愛い  
給仕じゃねえか！  
なんだよそのエロい  
メイド服は！

ほらほら、こっちに来いよ  
俺達がたつぷり可愛がつて  
やるからよ！

くっ…

俺の体はクレイマンに操られていたが、今は一時的に体の主導権が俺に戻されている。勿論、クレイマンの意向に逆らうような行動を取れば、すぐに体の主導権が奪われるという条件付きでだ。つまり、クレイマンとしては、俺が自分からこいつらに奉仕するのを期待しているという事だ。悪趣味な奴…しかしそのおかげで、呪いの解除に必要な大賢者の演算能力がアップしている。早くこの呪いを解除できるよう、クレイマンの機嫌を損ねないようにしなければ。



おら、ここで  
両足を開け！

……ッ！

言われるがままテーブルに登って両足を開くと、男達から歓声上がる。くそ、こんなに大勢の男が見ている前で、こんな格好になるなんて…。とは言え、ここで彼らに逆らっても、事態が好転するとは思えない。俺は悪態をつきたくなるのを我慢して、男達の命令に従って足を開いた。



おい、何ポーっとしてんだ？  
さっさとオナニーしろよ！

えっ…？

んっ…

んんん

ん

すっ

男達に怒鳴りつけられ、俺は体をびくっと震わせた後、  
メイドピキニのパンツに指を添わせる。  
くそっ…相変わらず上質な布で作られてる…  
触り心地がめちゃくちゃ良くて、気持ちいい…。  
魔王だけあって、あんな白いスーツでお洒落してるだけあって、  
こういう所のこだわりは普通に凄いなアイツ。  
いやいや、感心してどうする…  
俺は今、アイツの命令で辱められてるんだぞっ！



おいおい、パンツの上から  
オナニーってバカかよ！  
中身を見せろや！

ひゅー…

ドキ

ドキ

ふっ

ふっ

ふっ

ドキ

俺は従うようにメイドビキニのパンツをずらし、割れ目を露出させる。  
軽いオナニーで少し湿ったオマンコが、荒くれ男達の視線にさらされる。  
うわっ…こいつらめちやくちや見てくる…。  
こんな大勢の前で…恥ずかしい…。  
でも、なんだこの感覚…。ドキドキして、呼吸が荒くなってきた…。



まだ毛も生えてない  
割れ目の癖して  
こんな仕事してるのかよ！  
とんだ変態だなあ！

ほらほら！  
変態は変態らしく  
公開オナニーして  
俺達を楽しませろよ！

っ♡…っ♡  
っ♡…っ♡

俺は男達に脅される形で、割れ目に直接指先を這わせて、  
オナニーを開始した。  
パンツ越しでの触り心地も良いのだが、  
やはり直接触る刺激の方が強い。  
俺は声を殺しながら、不器用な手つきで、  
ゆっくりと敏感な所を刺激していく。



くそ、こいつじれつてえな！  
もつと見せるよッ！！

ひああっ!?

?!

おおっ、流石に綺麗な  
ピンク色じゃねえか！  
処女じゃないのは残念だけどな

こんな所で働く奴が  
処女なわけあるかよ！

俺の不器用なオナニーに苛立った冒険者の二人が、  
俺の割れ目を強引に開いた。  
ひんやりとした酒場の空気と、酒臭く生暖かい男達の吐息が、  
濡れた粘膜に当たる。  
くそっ…こんな所まで見られるなんて…。  
俺はゾクゾクとした興奮で体を震わせた。



なんだ？  
体なんか震わせて  
もしかして小便でも  
したいのか？

い、いやっ…  
そういうわけでは…

そいつはいい！  
ほら、このジョッキに  
小便しろ！  
今、ここで！！

えっ!? ええええええっつっ!!!?  
こんな場所で、こんな大勢に見られながら放尿するなんて、  
そんな恥ずかしい事…。  
って、大賢者さん!! 律儀に膀胱に水分貯めなくていいから!  
あっ…ダメだこれ…もう我慢できないっ…。

お、お、お



あっ…  
ああああああっ…

へっ、こいつ  
客の見られてる前で  
小便してやがるぜ!!

出せって言われて  
すぐ出るって  
才能かよ

俺は冒険者たちに罵倒されながら、ジヨッキに向けて放尿した。  
トイレをずっと我慢した後の放尿のような、開放感と心地よさに、  
俺は体を震わせる。  
そういえばこの体になってから、こんな感覚味わってなかったな！  
おしっこって気持ち良かったんだ。  
俺は恍惚とした顔で、ジヨッキが一杯になるまで放尿を続けてしまった。

じょぽ

じょぽ

じょぽ



おいおい、一杯とは言ったが大ジョッキが満杯にとは言っていないぞ

うわっ、どんだけ小便してんだよコイツ!!

冒険者の一人が俺の尿が入ったジョッキを掲げて大笑いしている。大勢の前で放尿させられただけでなく、それを掲げてばかにされるなんて...。恥ずかしい...屈辱的だ...そのはずなのに、俺はなぜかドキドキしてしまっている。





ほら、小便ジョッキの  
札に酒を著って寄るよ

ひっ…!!  
やめっ…!!

えっ!!  
下の口で  
呑めってこと!!  
大丈夫なの?

数十倍!?  
流石にヤバいんじゃない?  
でも毒耐性あるから  
大丈夫だよね…?

解。粘膜からアルコールが  
吸収されます。  
膣粘膜の吸収率は  
皮膚の数十倍です。

否。クレイマンの呪いで  
スキルが封じられています。



ほらほら  
遠慮すんなって…

ひっ!!?  
やめっ…!!

冒険者は何の遠慮も無く、  
オマンコにホースを挿入した。  
酒瓶の口に付着していたアルコールが  
膣にピリツとした刺激を与えられる。  
おい、こんな度数の高い酒を、  
粘膜吸収させたらどうなるんだよ!?

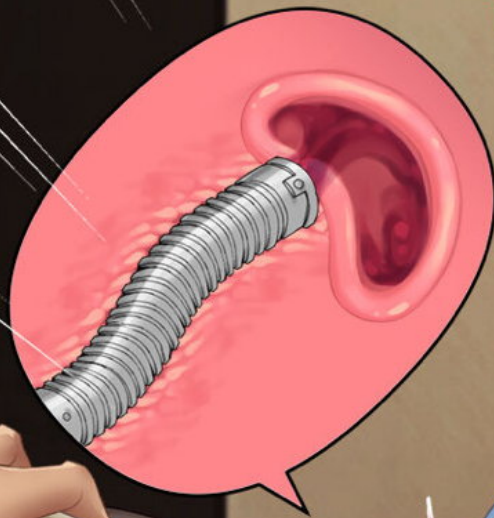


おまんこ

オラっ!  
一気に飲み込め!!

ぐあっ!?!  
あああああっ!!

ドブドブと音を立てて、  
強烈なアルコール度数の酒が、  
俺の膣へと流れ込んだ。  
そのほとんどは膣に注ぎ込まれた後、  
びちゃびちゃと外にあふれ出していく。  
しかし、その二部は俺の膣、  
そして俺の子宮にまで流れ込んできて、  
敏感な粘膜に刺激を与えながら、  
俺の体へと吸収されていた。



おお、早速  
酔っ払ってきたか？  
強い酒だから  
キマるだろ？

あっ…  
あっ…  
あっ…？

うあっ…

アルコールが染み込んだ事で上昇した  
体温が子宮から全身へと広がっていく。  
それが頭に達した所で俺の意識は  
熱を帯びたように混濁し始める。  
酒に酔うなんて久々の感覚だ。  
このフワフワとした感覚は気持ちいい。



どうだオマンコから  
酒を飲んだ感想は？  
美味かっただろ？

こ、こんやのっ…  
味がわかるわれっ…  
あうっ…

…ダメだ、頭がボーっとして、  
考えが纏まらない。  
でも、なぜかオマンコの感覚だけは、  
逆に鋭敏になっている気がする。  
オナニーしたい。  
ここに色々突っ込まれたい。  
気持ち良くなりたい。  
アルコールで理性が飛んだ俺を  
支配していたのは、  
メスの体に宿る本能になりつつあった。



ははっ！  
まだ毛も生えてねえ  
ような奴に酒の美味さは  
わかんねえか！

ミルクでも飲ませて  
やればよかつたか？  
ギヤハハハハ！！


なっ…人の事  
バカにして…

頭がぼわんぼわんして、全ての言葉を聞き取れたわけではないが、  
バカにされてる事はわかる。  
酒の代わりにミルクを頼めなんて、  
こういう場所では定番の煽り文句じゃないか。  
そもそもオマンコから酒飲んで味なんか感じるわけないだろ、  
いい加減腹が立ってきたぞ。  
我慢してきたが、もう限界だ。



そういう事なら  
たっぷりミルクを  
飲ませてもらうからな!

うおっ!!  
なんだこいつ  
いきなりっ!!

  
警告。極度の  
酩酊状態にあります

わかってるよ…  
でも、こんなのもう…  
我慢できないだろっ…?

こいつらへの怒りと、度数の強い酒による酩酊で、俺の理性は完全に吹き飛んでしまった。俺は大賢者の警告を無視し、ふらふらする体を起き上がらせ、テーブルの上から降りた。…降りたつもりだったのだが、降りようとした時にバランスを崩し、テーブルから落ちた。テーブルが倒れる音、酒瓶が割れる音、俺に巻き込まれて倒れる冒険者の音。そんな派手な音と、それを見ていた男達の驚きの声が、酒場内に響き渡った。

FA  
FA

あ

X

Sprinkle...

くそっ...こいつ  
人を下敷きに  
しやがって...

俺の真下には、俺のオマンコを開いて酒瓶を突っ込んできた男が居た。  
俺の一番近くに居たから、俺の転倒に巻き込まれてしまったようだ。  
運の悪い奴。でも丁度いい。こいつを使うとしようか。  
俺は男のスポンを脱がした。





ぐっ…!! コイツ…  
何しやがるっ!?

ミルクでも飲めって  
言ったのはお前だろ?  
だからお前のチンポから  
ミルクを搾り取ってやるんだよ!

俺がそう叫ぶと、下敷きになっている男も、周囲で見物している男達も絶句した。そりゃさっきまで大人しく従っていた女に押し倒されたら、誰だってそんな反応になるよな。さっきまで威勢が良かった男達が啞然としている様子を見るのは、中々に気持ちいい。さて、散々煽られたんだ。今度はこっちが煽り返してやるとするか。



人の事を毛が生えてないとか  
バカにしてた割には  
バキバキに勃起してんじゃんw

オマンコで軽く擦りあげられた  
だけで悲鳴を上げるなんて  
まさか童貞か?! ダッサw

はあっ!!  
どどど童貞ちゃうし!!

ヤバイ、超楽しい。こんなごつい男が、俺に組み敷かれて、悶絶してる。  
男の頃では味わえなかった感覚だ。周囲の男達も動揺した表情が見て取れる。  
こんなの、もう我慢できるわけじゃないじゃないか。  
思考に合わせるように操られていた体が動く。  
俺は腰を浮かして、オマンコの入口に、勃起チンポの先端を当てがった。



それじゃ  
そろそろっ…

んっ…

ぐっ…  
ひいっ!?

あっ♡  
ああっ♡♡♡

♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡

ハッ

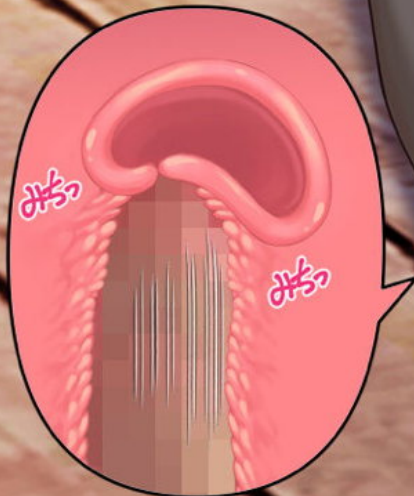
ハッ



公衆の面前で女の子に  
犯されてるのに  
随分気持ちよさそう  
じゃないか？w

うぐっ…こいつ  
絡みついてっ…  
まるでスライム  
みたいにつ…ああっ！

酔った状態でチンポ挿入するの、めっちゃくちや気持ちいいな…。  
ヤバい。腰が止まらないっ。男のチンポしこくの楽しすぎる。  
というか、今「まるでスライムみたい」って言ったよな…。  
まさかコイツ、スライムに挿入した事あるのか?? うわあ…。



ほらほら、俺の子宮に  
たっぷりミルクを  
奢ってくれよ

うぐっ…くそっ…!!  
こんなの我慢  
できるわけがっ…!!  
ぐあっ!

そして、コイツが反論しようとする瞬間に膣を締め付けてやると、  
うめき声を出して声が途切れる。  
大の男がこんな小柄な美少女に手玉に取られてる。ヤバいなコレ…  
興奮でゾクゾクしてくる。  
チンポがピクンピクンして、俺の子宮口に小刻みに押し付けられてる…  
もう射精が近そうだな。  
俺は子宮口に先端を密着させた状態で、腰を深く沈みこませた。





あっ… ああっ…♡  
いっばい出てくるっ…♡  
あっ…♡♡♡

くっ…  
し、搾り取られるっ!!  
うおああああっ…!!

俺の子宮内部に精液が流れ込んで来ると同時に、俺は絶頂した。  
こんな、どこの馬の骨か分からない男の汚らしい精液が、  
酒で敏感になった子宮へ入り込んで来る。  
やっぱり、この女性型ボディで犯されて中出しされるのは、本当に気持ちいい。  
俺は絶頂で痙攣し、体を震わせながら、男の精液を二滴残らず搾り取ってやった。



はあっ？  
はあっ？  
はあっ？

どれだけ気持ち  
いいんだろ…  
やべえな…

あ、あいつ…  
気絶するまで  
搾り取られたぜ…

俺が男を逆レイプして気絶するまで搾り取った事で、  
周囲の男達は騒然としていた。  
しかし同時に、周囲の男達もバキバキに勃起させ、  
俺に期待のまなざしを向けていた。  
へえ…こいつらも俺に犯されたいのか？ 揃いも揃って変態ばかりだな。  
俺もまだ満足してないし…。俺は近くに居た別の男を押し倒した。

ハァッ♡

身わ

身わ

はあっ♡

はあっ♡

はあっ♡

はあっ♡

はあっ♡

はあっ♡

はあっ♡

はあっ…



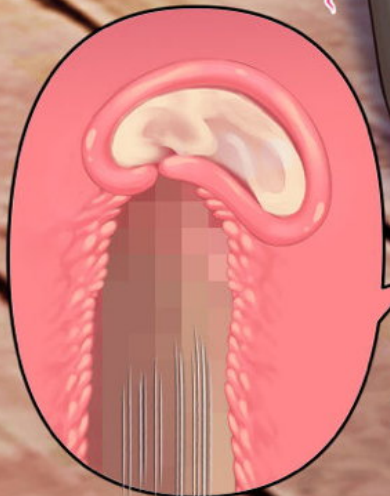
おー！  
♡

さっきからやらしい視線を向けてるの分かってるんだぞ次はお前だっ…！

ニおー！

うおっ…!!  
いいきなり挿入してきたあっ…!?

手際よく男を押し倒し、そのまま勃起したチンポを挿入する。  
まだイッたばかりで敏感なオマンコから、ぶびゅつと音を立てて精液があふれ出す。  
周囲の男達はざわめき、興奮し、俺が男を犯している様子から目が離せない。  
あんなに恥ずかしかつたのに、酒の力か、今は見られる事が気持ちいい。



いしゃぽっ♡

いしゃぽっ♡

どうだ？  
散々バカにしていた  
相手にこうやって  
犯される気分は？

いしゃぽっ♡

うぐっ…  
し、締め付けが…  
やばっ…!!!  
うおおお!!

さっきまで俺の事をあんなに笑いものにしてたのに、  
今は俺に組み敷かれて呻いてる。  
こいつら、プライドってものが無いのか？  
無いから底辺のゴロツキ冒険者なんだろうけど。  
とは言え、冒険者のわりにチンポだけは立派だな。  
子宮をゴリゴリされるの滅茶苦茶気持ちいい。  
オラッ！ 早く射精しろっ！

いしゃぽっ♡

いしゃぽっ♡





ついに冒険者たちはプライドも何もかも捨てて、俺に犯される順序を争い始めた。俺は子宮からあふれ出してくる精液の感触と共に、絶頂の余韻に浸りながらその光景を眺めた。そして俺は一晩中、こいつらの相手をつとめる事となったのだった。

はあっ…はあっ…  
次に犯されたい奴は  
どいつだ？

いや、俺だ!!  
次は俺の番だ!!

おっ…俺だっ!!  
俺を犯してくれっ!!

ハハハハ

身

身

フーッ

ハハハハ

ハハハハ

ハハハハ

ハハハハ

ハハハハ

ハハハハ



オッ…

ほう、全員から  
搾り取ったのか  
予想以上の  
逸材じゃないか

く、クレイマンッ…  
うぐっ…

丁度いい  
貴様には我が野望の  
ために一働きして  
もらおうでしょうか

翌朝。周囲を見渡すと、死屍累々と横たわる冒険者たちの中に、  
クレイマンが立っていた。

そうか…俺はあの後、冒険者全員を相手にして、そして意識を失ったんだっけ。  
俺は二日酔いでズキンと痛む頭に表情を歪めながら、  
クレイマンを見上げて睨みつける。  
クレイマンはそんな俺を愉快そうな顔で二瞥した後、  
俺を連れてどこかへと移動していった。



これはこれは…  
なんと美しい少女である事か！  
これはエドマリス王が  
お喜びになりますぞ！

そうでしょうそうですね  
是非ともエドマリス王に  
よろしくお伝え下さい

大賢者：俺は二体  
どこに連れて来られたんだ？

解。ファルムス王国と  
思われます。

俺は小綺麗なドレスに着替えさせられ、そのままジスターヴからファルムス王国へと連れていかれた。  
ファルムス王国は、ジスターヴと裏で取引しており、ご禁制の品の売買をしているらしく、俺は性奴隷として売られたのだった。  
勿論、まだ支配の宝珠による呪いは解除されていない。  
俺の足は俺の言う事を聞かず勝手に歩き、そしてエドマリスと取巻きの貴族達が待つ、秘密の部屋へと移動する事となった。

どうですかエドマリス王！  
極上の娘でありますぞ！

おお、これは  
性奴隷とするには  
勿体ないほどの  
美少女だな…！

うっ…ぐっ…

俺はエドマリスに命令され、地下室正面にある玉座に、  
両足を開いた状態で座らされた。  
純白のドレスに身を包んだ俺は、  
その美しさだけならばお姫様にも見えるかもしれない。  
しかしそのドレスのスカートは短く、  
同じく純白の下着が丸見えになっている。



さて、ここも見た目通り  
綺麗なら良いのだが  
下着を剥ぎ取れい！

きゃあう…!!

おおっ！  
毛の一本も生えていない  
美しい割れ目ですぞ!!

エドマリスに命じられ、レイヒムが俺の下着を強引に剥ぎ取ると、  
俺の割れ目が奴らの目に露になる。

エドマリスとレイヒム、そして取り巻きの貴族達は、  
俺を見てニタニタと笑みを浮かべている。

くそっ…気持ち悪い。

でもこれから起こる事を想像すると、ドキドキしてしまう…。





では次は余が直接  
確認してやると  
しようか！そらっ

おお！  
見た目通り美しい  
膜があるではないか！

ひっ…  
んんっ…!!

えっ？  
膜って処女膜の事？  
なんで…

いつの間に…  
というかそんな事に  
フルポーション使うなよ…

解。クレイマンが  
フルポーションで  
回復しています。

はぁ♡

それでは余が  
自ら慈悲を与えて  
やるとしよう

んっ…ひっ!  
ああああっっ!?!?

どうだ、多くの女を  
絶頂に追い込んだ  
余のテクは!

おちがっ  
おちがっ  
おちがっ

おちがっ  
おちがっ  
おちがっ

エドマリスはオマンコを広げたまま、器用に俺を愛撫し始めた。  
くそっ…こいつ本当にテクニクがすごい…!  
王様だから綺麗な女性をいくらでも食い放題だったんだろうな、  
羨ましい…。  
って、羨ましがってる場合か! くそっ…悔しいけど気持ちいい…!



可愛い反応を  
するではないか!  
余も興奮してきたぞ!

んっ…  
はあっ…はあっ…

えっ?  
あっ…!

エドマリスはズボンの前部分を開き、  
勃起したチンポを俺に見せつけて来た。  
うわっ…こいつ気持ち悪い顔してるくせに、  
立派なチンポ持ってるじゃないか!  
この前犯されたあの荒くれ冒険者達よりも、  
長くて太くて…。こんなの挿入れられたら…。  
…って、こいつのチンポに何を期待してるんだ俺は!



さて、それでは余の慈悲を与えてやるほら、懇願する事を許すぞ？

エドマリスは俺を抱きかかえた状態で、貴族達に見せつけるように玉座へと座った。クレイマンの能力で逆らうことは出来ない。チンポを前にメスの本能で身体が疼きだす。俺は屈辱的なセリフを自ら口にした。

…っ!!

…この私めにエドマリス王の慈悲を注ぎ込んで下さいっ…

はぁっ

はぁっ

はぁっ

びん

びん

ヒキッ

ヒキッ

グッ



んっ!!  
あああっ!!

ヒクヒク

ヒクヒク

ヒクヒク

ヒクヒク

♡♡♡

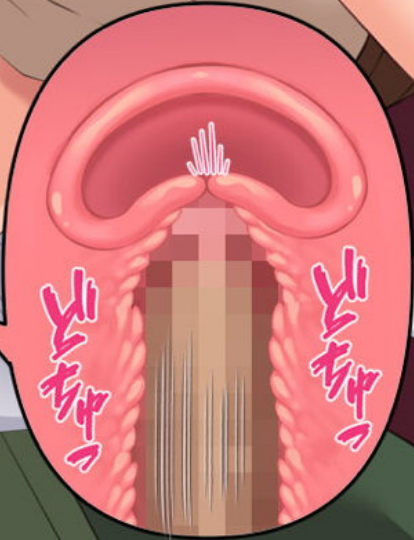
ほう、かなりの名器だな  
余のモノをがっちり  
啜え込んでおるぞ

ひっ…ぐっ…  
あぁあぁっっ!!

ぽんぽん♡

ぽんぽん♡

ぽんぽん♡



部下の魔法使いが使用した魔法で身体強化をした後、  
エドマリスは俺の体を持ち上げ、軽々と上下に揺さぶりはじめた。  
俺の膣は俺の体重でピストンされ、  
エドマリスのチンポが俺の子宮口にぶち当たる。  
オナホのような扱いを受けているのに、その快楽に俺の顔がゆがむ。  
気持ちいい…大勢の貴族の前でこんなに無様に犯されているのに…  
なんでこんなに…





おお、余の鬼頭に  
子宮が覆いかぶさって  
相性が良いぞ！

ひっ…  
あっ…

このまま中に出してやろう！  
ありがたく受け取るが良い！

ぽんぽん♡

ぽんぽん♡  
ぽんぽん♡  
ぽんぽん♡  
ぽんぽん♡  
ぽんぽん♡

とっつ  
とっつ

エドマリスはそのまま子宮を押し広げるように、  
その中を突き上げまくって来た。  
俺の子宮が、こんなヒゲ面の気色悪い男に、  
オナホ扱いされて犯されてる。  
そしてそんな俺の様子を、  
周囲の貴族達が勃起を隠す事なく見つめている。  
こんなの…我慢できるわけないだろ…俺、もう…







おお、子宮が  
吸い付いてくるわ  
そんなに余の  
精液が嬉しいか！

ひっ…あっ…  
あああ…！

ビクビク

ビクビク

ビクビク

ビクビク

一吸いっ♡

一吸いっ♡

♡吸いっ♡  
♡吸いっ♡

射精の瞬間、俺の意識は二瞬で真っ白になり、  
派手に絶頂してしまう。  
スキルで身体強化した結果なのか、恐ろしい量の  
精液があつと言う間に俺の小さい子宮を満たし、  
膣の隙間から外へと噴き出していく。  
ヤバイ…こんな大量の精液…気持ち良すぎる…。  
絶頂が止まらないっ…。



ふう、余は満足じゃ  
やはり美少女の花を  
散らすのは何よりの  
快樂よのう

うぐっ…  
はぁっ…はぁっ…

エドマリスは精液を吐き出し尽くした後、  
満足そうに俺からチンポを引き抜いた。  
俺の膣穴はだらしなく開いたまま、  
ごぼりと音を立てて大量の精液を溢れさせた。  
うわっ…すごい事になってるな、俺の体…  
俺は絶頂の余韻で体を震わせながら、  
そんな様子を他人事のように眺めていた。



羨ましいですぞ  
エドマリス王！  
我らにも是非  
ご下賜頂きたい！

そうか、そんなにも  
余が羨ましいか  
ハツハツハ！

エドマリス王！  
何卒！何卒！！

エドマリスが満足した所で、レイヒムと呼ばれた司教と、  
取り巻きの貴族達は、次々にそう申し出た。  
目の前で、あんな派手にレイプされてる姿を  
見せつけられたら、そうなる気持ちもわかる。  
とは言え、性奴隷の少女をレイプしたいがために、  
王に取り入る貴族と、それを見て悦に浸る王とは、  
この国はもう長く無いだろうな…。  
俺は精液を溢れさせながら、そんな事を考えていた。



そうだな…こやつはもう  
処女ではないのだ  
お前たちの好きにするが良い

エドマリスはそう言っつて、俺を玉座から下ろし、俺の事を冷たい視線で見下ろした。  
まるで、1回遊んだ玩具にはもう興味が無くなった、そんな感じの視線だ。  
コイツ、人の事をなんだと思っつてやがるんだ…。

流石はエドマリス王！  
下々の者にも寛大な  
名君であらせられる！

誠にその通りでございます！  
王のご采配に心からの  
感謝と忠誠を！

俺の事を人とは扱わず、完全に性奴隷として、性欲解消の道具として扱っている事が良くわかる会話だ。  
しかし…そんな状況にも関わらず、呪いのせいなのか、これまでに女の快楽を体に教え込まれたからか、  
俺の子宮は、こいつらに犯されている事を心待ちにしているかのように、再び疼き始めていた。

こんな美少女の  
相手が出来るとは…!!  
これもエドマリス王と  
ルミナス様の賜物ですな

なあに、ルミナス様は  
寛大な神様である  
お前にも司祭の加護を  
与えてやろうぞ

よ、よろしいのですか  
司祭様…  
このような事…

は、はいっ…

ルミナス教の司祭のくせして、  
こんな所で他国の王に取り入って、  
性奴隷犯してていいのよかよ。  
しかも司祭の加護って、  
ただチンポ突っ込みただけだろ。  
コイツ、とんだ生臭坊主だな。  
とは言え、俺の体は操られている。  
そんな生臭坊主に媚びるように、  
俺は四つん這いの体勢になった。



見るが良い  
これがお前に神の  
ご加護を与える  
聖棒であるぞ

うあっ…  
あっ…

ちゅちゅ

レイヒムは俺に見せつけるように、  
硬く勃起したチンポを露出させた。  
エドマリス王には劣るものの、  
割と立派なサイズのチンポで、  
先端から異臭を放っている。  
そんな悪臭にも関わらず、  
その臭いは俺の子宮を刺激し、  
強い興奮を与えて来る。



ほれほれ、神の  
ご加護が欲しいければ  
慈悲を乞うが良い

くっ…  
あっ…!!

レイヒムは俺のオマンコと尻に  
そのチンポをこすりつけていく。  
くそっ…  
こんな奴に媚びないといけなんなんて…  
めっちゃくちや腹立たしい。  
でももう我慢の限界だ。  
早くそのくっさいチンポを突っ込んで欲しい。  
俺は泣く泣く、レイヒムにおねだりした。

わ、わたくしは  
神のご加護を…

なっ

なっ







パニッ

なんと素晴らしい  
締め付けと絡みつき！  
まるでスライムの  
ようではないか！

ひっ…！

んん…！！

あああ…♡

レイヒムは感極まったのか、  
涙を流しながら必死に腰を振っている。  
つていうか、今コイツ、  
スライムのようにだって言った？  
酒場のゴロツキもそんな事言ってたが、  
もしかしてこの世界では、  
スライムをオナホに使う事って  
普通の事なのか？



パニッ

パニッ

パニッ



おっぱい♡

おっぱい♡

うおおっつ!!  
そんなに締め付け絡みついたら  
我慢が出来ぬぞっ!!  
そんなに私の慈悲が欲しいか!

あっ!  
ひあああっつ!!

レイヒムは狂ったように  
ピストンを繰り返した。  
まるで童貞のような荒々しさ...  
もしかしてコイツ、  
本当に童貞だったのかもしれないな。  
俺の事なんて一切考えてない、  
乱暴なレイプでも、だからこそ、  
気持ちいい。  
レイヒムのチンポがビクビクし始めた。  
もう射精が近いのか...俺は身構えた。



ふおおおっつ!!

ひぐっ!!  
ああああっつ!!

おんちゅん♡

んん♡



おおおつ…  
吸い込まれるようだ…!!

うっ…  
あっ…♡あっ…♡

レイヒムは俺の子宮内にチンポの先端を  
めり込ませたまま、大量に射精した。  
子宮に直接流れ込むドロドロの  
精液の感触で、俺も絶頂へと導かれた。  
先ほどのエドマリスの精液も多かったが、  
こいつそれより多いんじゃないか？  
童貞で禁欲生活を送って来たから、  
それまでの分が溜っているんだらうか？





レイヒム殿！  
次は私ですぞ！！

おおつ…  
失礼した  
では…

ひひひ…！！

俺の背後で絶頂の余韻に浸っていた  
レイヒムを押しよけるように、  
次の貴族が割り込んで来た。  
こいつら、どんだけ俺とやりたいんだ…  
でも、こうやって男達が我先にと争い、  
俺を求めてくるのは翻弄しているようで  
なんだか気分がいいな…。  
くそっ…  
自分でも異常だとは分かっているが、  
目の前の快樂には抗えない…。



おっ…おおおっ!!  
素晴らしい!  
本当にスライムのような  
オマンコですな!!

んっ…♡  
あああああっ♡♡♡

ズ  
プ  
プ  
プ  
プ  
♡

んんん

んんん

んんん

はっ

はっ

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん



おまんこ♡

絶頂の余韻がまだ残っている腔内に  
新たなチンポがねじ込まれる。  
慣れているのか的確に俺の弱点を、  
チンポの先端で擦りあげて来る。  
ヤバイ…本当に気持ちいい…  
このまま犯されていた気分になる…。  
って、コイツもスライムって言った?  
どんだけスライムで性処理してんだよ…。





ふう…根こそぎ  
搾り取られたわい…

いや私が  
先ですぞっ!!

つ、次はワシの  
番じゃぞ!!

んっ…  
あっ…♡♡

まあまあ皆さん  
争わずに  
順番を守って…

無様に犯され、半開きのオマンコから  
精液を溢れさせる俺を求め、  
身なりの良い貴族達が争っている。  
俺はそんな滑稽な様子を  
ポーッと眺めながら、  
絶頂の余韻に浸った。



数時間後！

いやー、最高の性奴隷でしたなあ

はあっ... はあっ...  
はあっ... はあっ...

いやはや全くその通りですな  
次はかの国の侵攻作戦の前に  
我が軍の士気向上の為にも  
兵士達に下賜してやりましょう

貴族達全員が俺を犯した後、  
奴らはワインを飲みながら  
俺を見下し談笑していた。  
兵士にも下賜するだつて？  
コイツら、本当に俺を  
道具としてしか見てないな...  
まだ大賢者による呪いの解除は  
終わらなさそうだし、  
次はいつたいどんな野蛮な  
犯され方をするんだ...



翌日。

俺はファルムス王国の国境警備隊の所へと移動させられた。

ファルムス王国の国境は、俺の国であるテンペストがある、ジュラの大森林とも接している。そのため、ジュラの大森林から漏れ出した魔物が、国に入らないようにするための、重要な場所のようだ。

ジュラの魔物と言っても、全てが俺の配下にいるわけじゃない。

その中には知能も無く、見境なく人を襲うタイプの魔物だって大勢いる。

俺だって何度も襲われたし、何度も倒してきたわけで、その大変さは良くわかる。

だからこそ、その労をねぎらうために、俺が与えられたのだろう。

前線の兵士を大切にしているのは予想外だが、だからこそ案外油断出来ない国なのかもしれない。そんな事を考えながら、俺は国境警備隊の詰め所へと到着した。

これが貴様たちの  
相手をする性奴隷だ  
ハメを外し過ぎるなよ

うおおっ!?  
こんな可愛い  
女の子が性奴隷っ!?

今まで何人も  
性奴隷は来たけど  
こんな美少女  
初めてですよ!

やっべ…  
興奮してきた…!  
もう何日もヤッて  
ないからなあ…

!!

俺を見るなり、前線の兵士達が歓声を上げる。  
そりやそうだ。今の俺は大の男に囲まれて逃げ場も無く、なんでもやりたい放題。  
しかもバニーガール姿の美少女なんだから。男なら喜ばないわけがないよな…。



規則は守るように！  
違反者には罰則を  
与えるからな？

わかってますって！  
じゃあまず年功序列で  
俺からだな！！

ガッ

ひっ！

んっ…♡

うひょおっ！！  
もっちりした最高の尻！！  
それに可愛い声！！

ふに♡

ふに♡

兵士は両手でがっしりと俺の尻を掴んで、乱暴に揉みしだいてきた。  
網タイツに包まれた尻が揉まれるたびに、俺の口から苦悶の声が漏れ出す。  
この乱暴さに、これから兵士達にレイプされてしまうのだと、  
否応なしに自覚させられてしまう。

さーで、ご開帳と  
いえますかあ！

おおっ!!  
綺麗な割れ目  
じゃないか!

やっ!!  
いやっ!!

これ本当に王様や  
貴族が輪姦した後なのか?  
信じられねえ...

俺の尻を揉んでいた兵士は、バニースーツの股間部分をずらし、網タイツに穴を空けた。  
俺の無防備な割れ目が兵士達の目に映ると、兵士達は歓声を上げる。  
こんな尻をつき出した体勢で股間を見られるのは、思ってたより恥ずかしいな...

びいっ

びいっ

ぶい



うわっ、全然綺麗な  
ままじゃねえか！

ひっ……！  
んんっ……♡

性奴隷って大抵は  
使い込まれて  
黒ずんでるからな……  
こりゃ大当たりだぞ

兵士は俺のオマンコを左右に広げ、その内部を外気に晒し、衆目に晒した。  
興奮した吐息が吐きかけられ、オマンコがピクンと反応してしまふ。  
ヤバイっ……恥ずかかしすぎるっ……。でも、興奮でソクソクしてしまふ……。





しかし、こんな小柄だと  
根元まで入らないかも  
しれないよな？

そこは大丈夫だ  
王様が子宮まで  
開発してくれたらしいぜ？

俺のオマンコを広げてその様子をしっかりと堪能した後、兵士はチンポを露出させた。  
何日風呂に入れていないのだろう。強烈な男臭が俺の鼻孔を刺激する。  
ヤバイ、こんな匂い嗅がされたら、もう…。そして兵士は、俺の膣口に先端を当てがった。

むわっ



ひぐわ!!  
んんんんん  
♡♡♡

んんん

んんん

んんん  
♡♡♡



うおおおっ!?!?  
なんだこの絡みつきっ!  
まるでスライムじゃないか!?

はっ...  
うっ...  
♡♡

でもスライム  
って緩いよな?  
締め付けは  
どうなんだ?

締め付けも最高すぎる!  
子宮口でさらに締め付けられて...  
うおおお!!

こいつらどんだけスライム好きなんだよ。スライムをオナホにしすぎだろ。  
しかし、流石に若い兵士だけあって、今までの奴らとは力強さが桁違いだな...  
凄い勢いで突き上げて来る...ヤバイっ...子宮が抉られて...気持ち良すぎるっ...!



くっそ!!  
こんな名器、我慢できる  
わけねえだろ!!

んっっ!!  
あぁあぁあっっ!!

締め付けの強い  
スライムとか:  
最高すぎるだろ……

しかも男を挑発する  
服で誘いやがって:  
ヤバイ、見るだけで  
射精しそうだわ

兵士は前線で女とやる機会が無かったのか、もう限界が近そうだった。  
鍛えぬいたその体幹で、俺の最深部ばかりをゴリゴリと突き上げ、  
子宮を押し広げてくる。  
こんな状態で射精なんかされたら……俺はその瞬間を覚悟した。





おっ…  
おおおおっ!!  
滅茶苦茶搾り取って  
くるぞっ!!

あっ♡ あっ♡  
ああああ♡♡

うわ…あの顔  
エロッ…!!

今ビクンってしたよな?  
射精されてイッたよな?  
エロすぎるだろ…

兵士は腰を突き上げながら射精し、勢いよく俺の子宮に精液を叩きつけた。  
こんな勢いで射精されて、絶頂しないはずがないだろ。  
俺は絶頂して、絶叫に近い喘ぎ声を上げながら、兵士の精液を搾り取って行った。



うっ…  
搾り取られたぜっ…

よし、次は  
俺の番だな！  
俺の色に  
染めてやるぜ！

はあっ…  
はあっ…  
はあっ…

おいおい、ぶっかけは  
後の奴に迷惑だから、  
ちゃんと中に出せよ？

最初の兵士は、孕ませる勢いで射精した後、俺からペニスを引き抜いた。  
ぽっかりと口を開いた膣穴から、大量の精液があふれ出してくる感覚が伝わる。  
しかし、それと同時に、次の兵士が俺の真後ろに立ち、勃起したペニスを当てがった。



うおおっ!!  
こいつは最高に  
気持ち良すぎるぜ!

ひっ!  
ひぐうっ!!

ああああっ♡♡♡

前の兵士の精液が全てあふれ出る前に、次の兵士が俺のオマンコにチンポを突っ込んだ。  
イッたばかりで敏感な体に、鍛え抜かれた肉体によって、子宮が激しく突き上げられる。  
一突き一突きで絶頂させられ、俺は狂ったような声をあげ、泣きわめく。  
ヤバイ…このままじゃ…。刺激が強すぎて…。気持ち良すぎておかしくなる。







いやし、ヤツたヤツた  
一生分出した気がするわ

しかし3周目  
くらいからは  
流石に締め付けも  
緩くなってたな

あえっ！  
あっ！

そうだなあ  
まあ次は奴隷用に  
使われるだけだし  
別にいいだろ

兵士達は一晩中犯した後、酒盛りをして談笑をしていた。  
俺はと言えば、緩くなった膣穴にデイルドを突っ込まれた状態で放置されていた。  
何とか正気を失わずに済んだが…こんな事が続いているは、流石に…。  
そう思っていた時の事だった。大賢者から朗報が届いた。





告。あと12時間で  
呪いの解除が完了します。

おお！  
あと半日で終わるのか！  
ありがとう大賢者！

あと半日だけ耐えれば…次の奴隷達の相手さえ終われば良いという事だ。希望が見えて来た。

ところで快樂の  
強度調整って出来ないの？  
発狂するかと思っただけ…



勿論しております。  
マスターが発狂しない  
ギリギリの所に設定しています

なるほど？ なんでギリギリに設定するかな？  
まあいいや…。俺は奴隷達の所へと移動した。

もうちょっと余裕ってものをですね…大賢者さん？

こいつが俺達の  
性奴隷かつ…  
ほら、そこで足を開けっ！

…っ!!

オスを目の前に当然のように自然と股が開く。  
奴隷はジュラの大森林で捕らえられたゴブリンのようだった。  
確かに、国境最前線で捕らえて奴隷として使うには  
丁度良い存在なのだろう。  
ゴブリンの二人は俺の股間へと近づいて来た。





うげっ…兵士の  
精液が残ってやがる！  
全部かきだすか

ひっ…！んっ…  
ああっ…♡

ゴブリンは俺のオマンコに細長い指を突っ込んで、  
ぐちゃぐちゃとかき回し始めた。  
その動きに合わせて、俺のオマンコからは精液が  
ゴボゴボとあふれ出していく。  
勿論それだけでなく、ゴブリンは  
俺の膣壁や子宮口も乱暴に愛撫していく。  
こんな雑な動きなのに、気持ち良くなってしまふ。  
俺は軽く絶頂してしまった。

いっほっ♡  
いっほっ♡



クソツッ……  
精液が多すぎてキリがねえぞ  
仕方ねえ、こんな所にするか

はあっ……  
はあっ……

それはそうとお前  
さつき軽くイツたる？  
こんな乱暴にかき回されて  
イクなんて変態か？

うぐ……  
ち、違……

ゴブリンに絶頂した事がバレており、  
俺は思わず赤面してしまう。  
変態扱いされているというのに、  
何故かソクソクしてしまう。  
そんな俺の興奮を見抜いたのか、  
ゴブリンはニタアと邪悪な笑みを浮かべた。

ズンズンズン

は

は

……

ほら、チンポが  
欲しければおねだり  
してみろよ

ゴブリンがチンポを露出させた瞬間、強烈な悪臭が俺の鼻孔に広がった。  
同時にゴブリンはそのチンポで、俺のオマンコを擦りあげて来た。  
くそっ…早くそれをねじ込まれたい。俺の体はすっかり発情していた。  
でも、そのためには、このゴブリンに懇願しないといけないわけで…。

…ッ！

…ち、チンポを下さいっ…  
お願いしますっ…！

はぁっ

はぁっ

すり

すり

おんち





なんだコイツ？  
ユルユルじゃねえか  
おい、しつかり力入れて  
締め付けろ！

お前が欲しいって  
言ったチンポだろ？  
ちゃんと扱えよ？

ひっ！  
は、はいっ…♡

ゴブリンはそうやって俺を罵倒しながら、雑に腰を動かして来た。  
くそっ…なんでこんな奴に緩いだの何だの  
バカにされなきゃいけないんだ。  
でも…それでも俺の体は、チンポの誘惑に逆らう事は出来ない。  
ゴブリンのチンポが膣壁を擦りあげるたびに、  
俺は甘い声で鳴いた。

おふっ♡

おふっ♡

おふっ♡

おふっ♡

そうそう、そうやって  
締め付けられれば  
いいんだよっ！

そろそろ膣中に出すぞっ！！  
しつかり受け止めるんだぞ！！

んっ…♡ひっ！  
くあぁっ…♡♡

は、はいっ…♡

ゴブリンは俺の下半身に腰を叩きつけるように、  
子宮奥ばかりを突き上げ始めた。  
射精が近づいている男達が、いつももやっている腰の動きだ。  
奴隷ゴブリンの精液って、どれくらい出るんだ？  
俺がそんな事を考えた直後。  
ゴブリンは俺の子宮内に、その欲望を解き放った。





ゴブリンは俺の子宮に、まるで小便でもするかのように射精した。  
ゴブリンのチンポはそこまで大きくないのに、精液はものすごい量だ。  
魔物だからか？ それとも自慰行為すら禁止されていたからだろうか？  
そんな事を考えながら、俺は授精絶頂に体を震わせていた。

おおっ：  
マンコが吸い付いてきやがるっ：  
そんなに俺の子が欲しいのか？

あっ：  
うあっ：  
うあっ：



ふうー  
スツキリしたぜえ

ゴブリンがオマンコからチンポを引き抜くと、  
勢いよく精液があふれ出した。  
兵士3〜4人分くらいはあるぞコレ…  
他の世界観だと、ゴブリンは繁殖力が強く、  
人間のメスを孕ませるって言うもんな。  
俺は精液が溢れるオマンコを眺めながら、  
そんな事を呆然と考えていた。

はあっ…はあっ…  
うっ…

いっ…

いっ…

いっ…



それじゃ交代だ  
俺が種付けて  
やるからな

後がつかえてんだ  
早くしろよな

うっ…  
は、はいっ…♡

そうやって次の奴隷が、俺を犯すために近寄ってきた。  
あと少し、あと少しすれば…こんな辱めともおさらばできるんだ。  
でも、俺は本当にこの快楽から逃れる事を望んでいるのだろうか？  
俺はゴブリン達に何度も犯され絶頂しながら、  
そんな事を自問自答するのだった。

パンッ

パンッ

パンッ

パンッ

パンッ

パンッ

パンッ

パンッ

パンッ

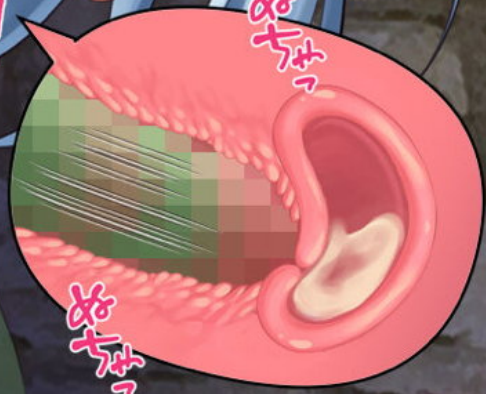
いっ♡

いっ♡

パンッ

パンッ

たっ…



おっ

おっ

12時間後：

はあっ…はあっ…  
こいつら、やりたい放題  
やりやがって…

俺はゴ布林達に犯しつくされた。  
ゴ布林達は2周ほど俺を犯した後、  
俺のオマンコにクスコを突っ込んで広げた上で、  
オナニーして射精しはじめたのだ。  
おかげで、クスコで開かれた俺の子宮はすっかり  
精液をため込んでしまった上、  
俺の体にも精液が飛び散って、  
全身生臭い精液に包まれる羽目になったのだった。



はぁっっっ

たう…



告。呪いの解除が  
完了しました

おおっ...!  
これでついにこんな  
辱めともオサラバだな!

そして、ついに待ち望んでいたその時がやってきた。  
俺の体はついに自由に動かせるようになったのだ。  
あとはここから脱出するだけだ。しかし...

本当に脱出して  
よろしいのですね?

大賢者は、俺の本心を見抜いていたのだ。  
俺が本当は何をしたいのか、何をされたいのか...。  
そして、俺は...

...そ、それは...

いっほいっほ

たう...  
...

END

